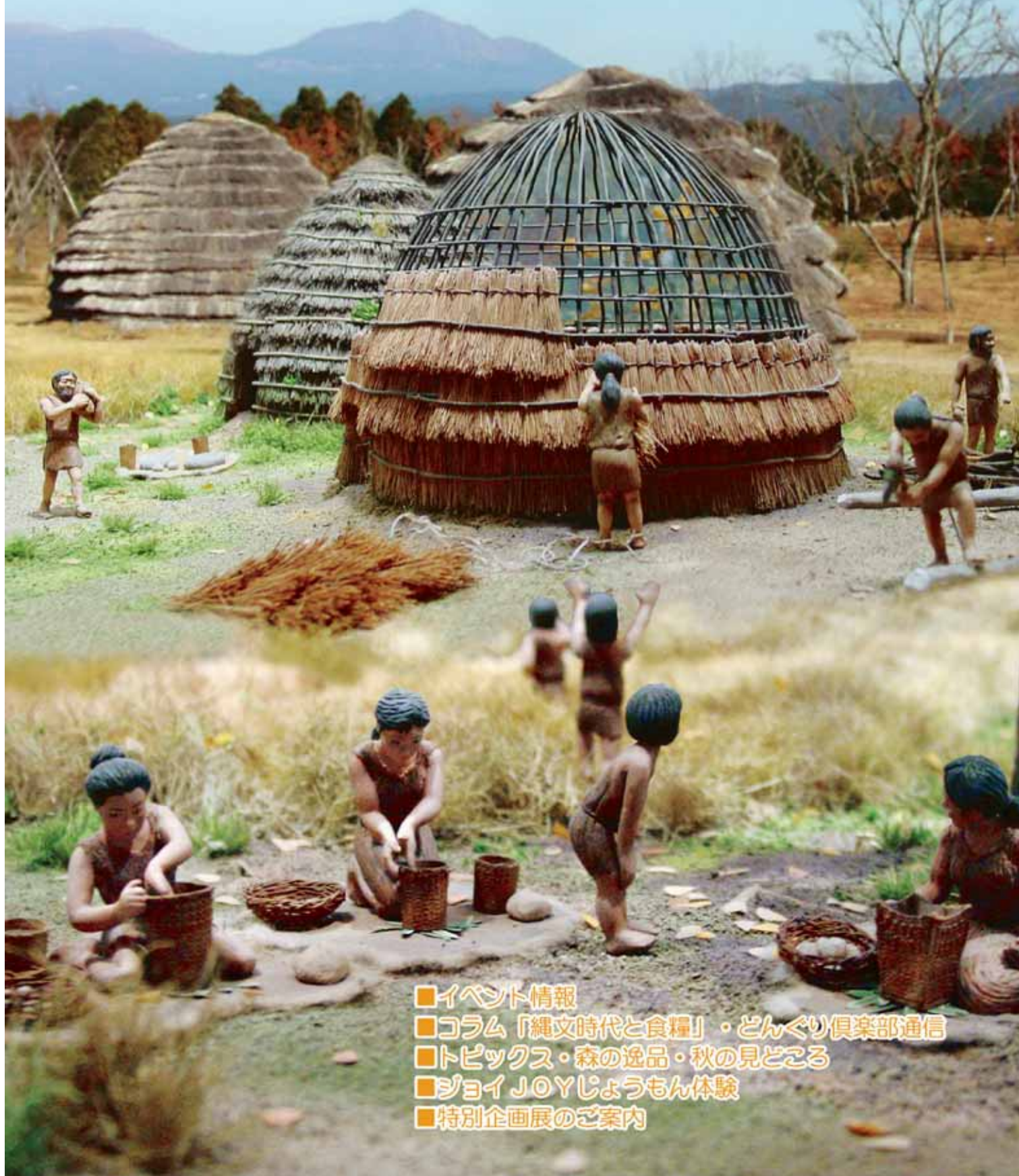


上野原縄文の森 だより

UENOHARA JOMON NO MORI

2003.10

vol. 3



- イベント情報
- コラム「縄文時代と食糧」・どんぐり倶楽部通信
- トピックス・森の逸品・秋の見どころ
- ジョイJOYじょうもん体験
- 特別企画展のご案内

イベント情報

information

ジョイJOYじょうもん体験

1日体験コース

■場 所 上野原縄文の森体験学習館

■時 間 各回10:00~15:00

10/18(土)

「木の実で遊ぶ1日」

ドングリや小枝などを使って、装飾品を作ります。



11/15(土)

「森で縄文食三昧」

ドングリクッキー、くん製・石蒸し料理作りや縄文土器を使っての煮炊きなど。

12/20(土)

「クリスマスアートと正月飾り」



クリスマスリースやミニ門松などを作ります。

1/3(土)

「大凧に夢をのせて」

大凧作りと凧揚げ大会。



- 定 員 各回 小学生以上40名 ※小学生は保護者同伴
- 参加費用 100円(保険料)
- 申込方法 希望日、氏名・年齢、連絡先などを明記の上、はがき・FAX・Eメールのいずれかで、各実施日の2週間前までに申し込んでください。
(応募者多数の場合は先着順となります。)

ウォーキング in 上野原縄文の森

11/1(土) 10:00スタート (受付9:00~ 開会9:30~)



スタンプラリー形式で、縄文の森園内や上野原台地を巡るウォーキング大会です。

- ①縄文の森コース (約2.5km)
- ②上野原台地コース(約4.2km)
- ③桜島コース (約7km)

- 定 員 各コース150名
- 参加費用 100円(保険料)
- 申込方法 「ウォーキング参加希望」と明記の上、希望コース、氏名・年齢、連絡先などを記入し、往復はがきで、10月18日(土)までに申し込んでください。
(応募者多数の場合は先着順となります。)

縄文時代の食べ物というと、多くの方はドングリを思いだす。ドングリはブナ科の果実であるが、ドングリがなる木が多い地中海農耕文化圏（地中海沿岸域で、気候は冬雨暖温帯、植生は硬葉樹林帯）でも、或いは日本と同じ根栽農耕文化圏（熱帯アジア）から分かれて発達した照葉樹林文化圏に属する南中国でも、炭化したドングリが出土したという事実は聞いたことがない。他のサバンナ農耕文化圏（アフリカ北部の草原地域）や新大陸農耕文化圏（南北アメリカ大陸）でも同様である。樹木の果実を利用する照葉樹林文化圏では、ドングリ食同様果実を食べる柑橘類、葉を利用するチャ（ツバキ科）やアマチャ（ユキノシタ科）などの木本や、クズ、ヤマノイモ、ユリ、ヒガンバナなどの根を食用に利用してきた。ドングリは隔年結果現象があり、毎年果実がならない。大きな果実に多くの栄養物を配分すると、親木の成長に影響するので、数年間果実を作らないのである。従って毎年実が稔り、確実に食糧が得られるイネ、ムギその他の雑穀など一年生草本を選びだすことになる。

ならない年があれば、ドングリだけに依存する訳には行かない。そこで稔り年に収穫したドングリを貯蔵する技術が発達した。土器がない頃は土穴を掘って貯蔵したが、それだけではドングリが発芽してしまう。乾燥させるか、ドングリを窒息させるかしかない。窒息させるには土穴の底に緑葉を着けた枝を敷き詰め、ドングリの上に緑葉を着けた枝を多数のせて土をかぶせる。暗中之での葉の呼吸により、土穴の酸素が二酸化炭素と入れ代わり、ドングリは呼吸困難に陥り、休眠に入る。縄文人はこのような理屈を知る由もなく、経験で学んだのであろう。

イチイガシ、マテバシイ、スダジイ、コジイは渋くなく、生でも食べられるが、他のカシ類やナラ類のドングリは渋くてそのままでは食べられない。潰して水で晒し、渋を抜かなければならない。その晒し方に日本を東西に分ける中央構造線の東ではお湯で、西では水で晒すという文化の分化がある。

中央構造線の東ではナラ林文化圏があると主張して、西の照葉樹林文化圏との異質を指摘して頑張っている。東側は夏緑樹林帯（現在では落葉広葉樹林帯とはいわない）にあるので、異なった文化があってもおかしくはない。

イギリスではドングリ類を mast、その稔り年を mast year という。英国など家畜特に豚をブナやナラ類のドングリが沢山落下した森林に放って食べさせたことからできた言葉である。日本のようにヒトがドングリを食べたのではなく、家畜に食べさせ、それをヒトが食べるという肉食に偏した文化を持っている。現代ではヒトと植物との間に動物が入ると、人類によって意識して或いは意識せずに自然界に放出された有害化学物質をより濃縮された形で摂取させられることになる。水俣病は将にその例である。



上野原縄文の森 園長 田川 日出夫



上野原縄文の森支援友の会(どんぐり倶楽部)が発足して半年が経とうとしています。自主運営・自主活動のもと、会員が一丸となって上野原縄文の森が多くの方々に親しまれるよう取り組んでいます。

現在は、縄文の森が主催する体験活動の指導補助、縄文の森をサポートする活動、体験活動の推進・開発・発表（イベントの開催）等を行っています。

特に、体験活動を通しての思い出づくりや地域に残る遊び、伝統行事の伝承に力を入れています。

これからも、多くの方々との触れ合いを大切に活動していきます。今後共「どんぐり倶楽部」をよろしくお願いたします。（会長 植村春人）



▲6/28 ちきい（さおばかり）作り



▲7/26 くん製作



▲8/23 ▼紙トンボ・水鉄砲作り



会員募集中！！

年会費 1,000円
 申込先 上野原縄文の森支援友の会事務局
 (縄文の森内)
 TEL 0995-48-5701

頼もしい助っ人！ 国分南中ボランティアガイド



火おこし体験補助の様子

夏休み中の8月2日から9日までの間、地元国分市の国分南中学校の生徒のみなさん（選択教科で社会を選択している3年生）が、体験活動補助を中心に園内のボランティアガイドとして活躍しました。

国分南中の上野原でのボランティアは、縄文の森開園前の遺跡復元公開時から続いており、今年で5年目になります。

参加したみなさんは、夏の強い日差しの中、火おこしやアクセサリー、縄文食作りなどの体験補助や体験活動に使う材料の加工や準備、復元集落の竪穴住居内や土坑・住居跡の清掃など様々な活動を行いました。

この体験を今後の学校生活にぜひ活かしてください。

本当にありがとうございました。

開園1周年を前に 入園者数20万人突破

9月21日、縄文の森の入園者数が開園1周年を前に20万人を突破しました。幸運の20万人目となったのは、始良町の児玉俊明さん。

記念セレモニーでは、上野原遺跡出土の約9500年前の角筒土器（レプリカ）などがプレゼントされました。



写真左から、199,999人目の吉元美和ちゃん、児玉さん、田川縄文の森園長、200,001人目の山口良隆さん。



旅行券・地域特産品が当たる！

広域観光スタンプラリー実施中

国分市が主催する、2市6町を巡るスタンプラリーです。

■期 間/平成16年3月14日(日)まで

■ルール/「縄文の森」を必須とし、各市町のラリーポイント数カ所のうち、いずれか1カ所で備え付けの専用スタンプを押してください。計5カ所以上のスタンプが抽選条件となります。

■抽 選/平成16年3月14日(日)に行われる「国分縄文の森祭伝大会」会場（縄文の森祭りの広場）にお持ちください。

森の逸品

① 対で埋められた壺形土器



壺形土器は、一般的には液体や穀物などを貯蔵する容器と考えられており、全国的には、弥生時代（約2300年～1700年前）に稲作とともに普及しています。

南九州では、他の地域に先駆けて、縄文時代早期（約7500年前）に出現しました。

上野原遺跡では、台地の最も高い場所から、2つの完全な形の壺形土器が穴に埋められた状態で発見されました。この土器の口の部分には、「渦巻き文」などの華麗な文様が描かれています。

さらに、この2つの壺形土器を含め、限られた区域内からはほぼ完全な形で13個の壺形土器が見つかり、この場所がまつりや儀式などを行った場所ではないかと考えられています。

園内 秋 の見どころ

開園からまもなく1周年を迎える縄文の森。夏場の台風にも負けず、園内の木々ものびのびと生長しています。

縄文の森の秋は、木の実にあふれ、特に、クヌギ、コナラ、マテバシイ、アラカシ、クリなどいろんな種類のドングリがたわわに実っています。秋のすがすがしい風の中、ドングリ拾いを楽しんでみてはいかがでしょうか。拾ったドングリを使ってドングリアートを作ってみるのもおもしろいかもしれませんね。

また、空気の澄んだ秋は、復元集落や展望所などから霧島連山の高千穂や韓国岳などがよく見え感動的です。ぜひ、悠久の山々をバックに記念写真を撮っててください。

秋の縄文の森は、弁当持参で1日ゆっくりと過ごすのがおすすめです。



園内のドングリを使った「ドングリアート」



隣接地にある国分市の「コスモス園」にもぜひお立ち寄りください。

古代にふれた夏…。

ジョイJOYじょうもん体験

Experience of JOMON

2003年
6月
8月

ジョイJOYじょうもん体験は、上野原縄文の森の四季を彩る大自然とふれあい、学び、楽しみながらの体験を通して、縄文の森に親んでもらうとともに、古代への関心をもってもらうことを目的とした事業です。

今回は、この夏行われた、竪穴住居宿泊体験など様々な古代生活体験の様子を紹介します。

6
21

みんなで縄文のムラをつくろう

■1日体験コース 第2回

まずは復元集落の竪穴住居や連穴土坑などの遺構、縄文の森展示館内のジオラマなどをじっくり見学し、縄文時代の「ムラ」のイメージをふくらませることから始めました。

その後、紙粘土と針金を使い、狩りや連穴土坑でくん製料理を作る縄文人、動物、竪穴住居など参加者一人一人が思い思いの縄文のムラのパーツを作りました。



紙粘土と針金で竪穴住居作り。

紙粘土と針金で、狩りや連穴土坑でくん製料理を作る縄文人、動物、竪穴住居など参加者一人一人が思い思いの縄文のムラのパーツを作りました。

仕上げに色を塗り、土台にそれぞれ作ったパーツを置いて完成。
縄文時代の壮大なムラが現代によみがえりました。



各自作ったパーツを土台に置き、いよいよムラの完成が近づく。



完成したムラ

7
19
20

イカダづくりと水遊び

■1泊2日体験コース 第1回

縄文の森では初めての試みとなる宿泊体験。今年度は夏休み中に3回企画しました。メインとなる体験のほか、ナイトハイク・スターウォッチング、森の探検、縄文食作り、竪穴住居宿泊と盛りだくさんの内容となっています。

この日のメインは「イカダ作り」。今回みんなで作ったイカダは、3mの長さに切った竹を2本ずつひもで結び、2本ずつのものを5組合わせて、横木を渡し、ひもで固定したものを。参加した子供たちは、竹を運んだ後、早速イカダを作り始めましたが、竹をきつく結ぶのに悪戦苦闘。

どんぐり倶楽部（縄文の森支援友の会）のスタッフに結び方を教わり、大雨の中ようやく2隻を完成させました。

昼食後、いよいよ作ったイカダに試乗。最初は恐る恐る乗り込んでいましたが、乗ってみると楽しくて仕方ない様子。

みんな何回も何回も試乗していました。

また、余った竹を利用して食器や箸、水鉄砲なども作りました。

激しい雷雨のため、残念ながら竪穴住居に宿泊できませんでしたが、充実した2日間でした。



イカダ作り



竹で食器を作っているところ。



イカダ試乗

7
26
27

カブトムシ相撲大会

■1泊2日体験コース 第2回

雨に悩まされた1回目の宿泊体験とは打って変わって、この日は快晴。子供たちが大好きな夏の主役「カブトムシ」をテーマに、園内でのカブトムシ探しやビデオでの研究、カブトムシレース・相撲大会とカブトムシ三昧の1日となりました。

カブトムシレースは、木の棒のコースをどの選手(カブトムシ)が一番速くゴールできるかを競うものです。約50cmの距離とはいえ、レースは白熱。さっそうとゴールへ向かう選手もいれば、逆走してしまう選手もいたりとなかなか思うようにはいきません。「急げ!」と子供たちが木のコースをたたいてみても、当の選手は悠然としたままで、ギャラリーからは大きな笑いがおこっていました。

カブトムシレースの後は、いよいよお待ちかねの「相撲大会」。丸太でできた土俵の上から落ちこちたり、相手にひっくり返されると負けというのがこの相撲のルールです。決まり手は、角を使って相手を投げ飛ばす「角投げ」や相手を突いて土俵から押し出す「突き出し」など本物の相撲顔負けのものばかりでした。

相撲大会の個人戦優勝は、牧園小6年生の大重くん、家族対抗戦は、鹿児島市から参加した本松ファミリーでした。



カブトムシレース



カブトムシ相撲



決まり手は「角投げ」



相撲個人優勝の大重くん

★夜の体験★

<夕食>



夕食は、縄文風の石焼き料理に、竹で炊いたご飯と豚汁。竹飯と竹の食器はお父さんたちが作りしました。

<スターウォッチング>

県立博物館の先生を招いて、星空の観察をしました。天体望遠鏡から見える月のクレーターにびっくりしていました。



<竪穴住居宿泊>



▼寝のせいか親子でぐっすり。

一見蒸し暑そうに見えますが、至って快適。みんなどんな夢を見ましょう・・・



8
2
3

縄文土器づくり

■1泊2日体験コース 第3回

この夏最後の宿泊体験では、縄文土器作りに挑戦しました。

土器に縄模様をつける道具「縄文」を作り、いよいよ土器作り開始。まずは、こぶし大の粘土を伸ばして土器の底になる部分を作っておきます。そこに粘土ひもで巻き上げて形を作り、ある程度の高さに巻き上げたら、いったん風通しのよい場所に置いて乾燥させます。

この日は、乾燥させる間に土偶作りにも挑戦。縄文時代の土偶を参考にしながら、人の形のものや動物の形をしたものなど、それぞれ自分の好きな形の土偶を作りました。

乾燥の後は、引き続き、口の部分まで巻き上げてから形を整え、仕上げに先程作った縄文や貝ガラなどで文様をつけ、世界に1つしかないオリジナル縄文土器を完成させました。今回は作った土器を焼くところまでできませんでしたが、11月下旬に野焼きをする予定です。



8
9

草木の七変化

■1日体験コース 第3回

縄文時代の土器の中には、底の部分に編布（アングン・あみぬの）の模様がついていたものがあることから、当時の人々は、カラムシやクズなどの植物の繊維からとった糸を編んで布をつくっていたと考えられています。

この日の体験は、タイトルのお通り、草木が編み物に変わるまでの七変化を楽しんでみようというもの。今回は主に園内で調達したカラムシを使用しました。カラムシの語源は、茎（から）を蒸して皮をはぎ繊維をとったので、その名がついたと言われていました。

茎から葉をとった後、表面の皮をはぎ、このはいだ皮を貝ガラや石器でこすって繊維をとるという簡単な手順ですが、実際にやってみると、こするときに力を入れすぎるとちぎれるなどなかなか難しかったようです。

午後からは、先程とった繊維を使って「手織り機を使った編み」と「カード編み」の2つの編み方にチャレンジしました。編みに使う手織り機やカードも自分たちで作成し、手織り機では「コースター」を、カード編みでは「ベルト」を作りました。



カラムシとり。



カラムシの皮を石器でこすって繊維をとるところ。



カード編み

【カード編み】

対角線上に2つの穴を開けた3枚のカードを使い、左右交互に回転させて編む。

【手織り機での編み】

段ボールに縦糸を巻き付けておき、割りばしの端に巻き付けた横糸を通して編む。



手織り機での編み

8
23

草木のシンフォニー

■1日体験コース 第4回

染めは、自然にもともとある草や木、岩や土などを布にすりつけたり、泥の中につけるといったものから、やがて、草や木の汁にひたして染める「草木染め」に変わっていきます。縄文時代に染色が行われていたかどうかははっきりしていませんが、当時の人々は、ドングリや山菜などをアク抜きしてから食べていたようで、そのアク汁を利用して草木染めを行っていたと考えられています。実際に、弥生時代の吉野ヶ里遺跡からは、赤、茶、紫などいろいろな色に染められた布が見つかっています。

この日は、園内で調達した「よもぎ」のほか「あかね」、「タマネギの皮」を使った3種類の染めを体験しました。まずは草木を煮出して「染液」作り。煮出している間に、染めるハンカチをゴムや割りばしでしぼって模様を作り、煮出した染液の中へ30分程入れ染色しました。

染液から取り出し、軽く水洗いした後、仕上げにさらに30分程媒染液（色素を繊維に定着させるために使う鉄や銅、ミョウバン）にひたしたら出来上がり。染めあがってみたいと模様がわからないため、みんなワクワクしながらゴムや割りばしをとり、染めあがったハンカチを広げていました。同じ染液で染色しても、媒染液を変えることで様々な色のハンカチができていて、作った本人もびっくりの様子でした。



色とりどりに染めあがったハンカチ



よもぎを使っての染液作り



よもぎでの染色



ゴムや割りばしを使ったしぼり模様作り。



媒染液での発色。

平成15年度 上野原縄文の森 特別企画展のご案内

特別展 「よみがえる古代人」～発掘された奄美諸島の世界～

女子新聞催中!

【期 間】 10月26日(日)まで



▲あやまる第二貝塚(笠料町)の獣骨(ジュゴンの骨)

今回の特別展は「海」・「交流」とテーマに、奄美諸島を舞台にしています。

周囲を碧い海に囲まれた島々には、どのような世界があったのか、出土した遺物や生活の跡などから、当時の暮らしぶりを振り返ります。蛇味線(三味線)の音色とともにお楽しみください。

次回の企画展

11月1日(土)～ 収蔵品展「地域の中の考古学」

火山とともに生きた人々にスポットを当てて紹介する予定です。

「文化の日」無料開放

11月3日「文化の日」は、縄文の森展示館(展示室・シアター)の観覧料が無料となります。ぜひこの機会にご覧ください。



島での綱引き(9/13開催)

上野原縄文の森支援友の会

「どんぐり倶楽部」主催イベント

10月25日(土) 粘土クラフト・木製品作り

11月22日(土) 木の実で染色「どんぐり染め」

11月23日(日) かずらでバスケット作り

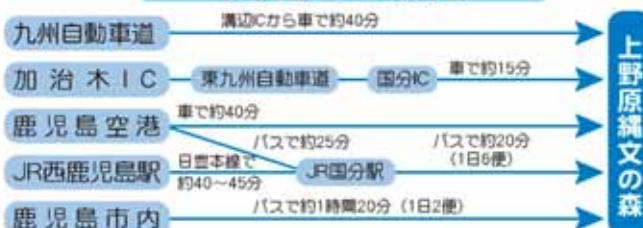
場所: 上野原縄文の森 時間: 10:00~12:00

※参加申し込みなど詳しくは、事務局(縄文の森内)

TEL 0995-48-5701までお問い合わせください。

【開園時間】 午前9時～午後5時
(7月1日～8月31日は午前9時～午後7時)
【休園日】 毎月第1・第3月曜日(休日の場合は翌日)
(4月29日～5月5日、7月21日～8月31日は無休)
12月30日～1月1日(年末年始)
【観覧料】 (団体は20名以上) ※展示館内の展示室・シアターのみ有料
◆個人 小・中学生 150円 高・大学生 210円 大人 300円
◆団体 小・中学生 120円 高・大学生 160円 大人 240円
(県内の学校が教育課程等に基づき学習活動の一環として観覧するとき等は減免措置有り)

交通のご案内



【編集・発行】財団法人鹿児島県文化振興財団 鹿児島県上野原縄文の森
〒899-4314 鹿児島県国分市川内1376番地1 電話 (0995) 48-5701 FAX (0995) 48-5704
URL <http://www.jomon-no-mori.jp> E-mail: uenohara@jomon-no-mori.jp